



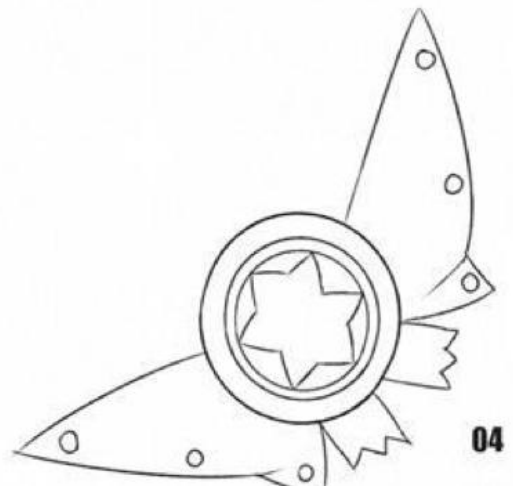
**18**

For ADULT ONLY



turu turu pain









イリヤっ♡♡ごめんねっ...  
もういくっ♡♡...

いくから見ててっ♡♡  
イリヤっ♡♡イリヤっ♡♡  
あっ♡♡あっ♡♡あっ♡♡  
いくっ♡♡...いくっ♡♡...



はあ…♥あのこ…こんなトコで何してんのよ…  
しかもあそこイリヤの机じゃない…

前から薄々思ってたけど結構スキモノなのね…  
んっ…♥どうしよう…わたしもヘンな気分にな  
ってきちゃった…♥

はあ♥

はあ♥

あ…  
い…

とろっ♥

ん…  
うたやっ♥

うたやっ♥

こんなで一回しちゃってもいいけど…  
こんな面白いモノ見てほっとく手はないわよね…♥



『ずいぶんお盛んじゃない♡』

『ごんなに濡らしちゃって♡  
教室中Hな臭いでいっぱいよ…♡』

『わたしが近づいても気づかないなんて  
そんなにイリヤの机でオナニーするの  
キモチよかった？』

『んっ…わかったわ…  
でも…』

『折角だからあなたのココロから  
あふれてるHな魔力…わたしに  
ちよーだい…♡』

『もちるんオ・ナ・ニー♡  
しながらね♡  
もちるんあなたに拒否権なんて  
ないのわかってるわよね…♡』

『いや…その…』

『これは…』

『んっそうね…  
流石にこのままじゃ  
可愛そうだからあなたの  
オナニー手伝ってあげる♡』





『えっ…そのかつ…』

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

『どっつ？魔力で作って見たんだけど。これならあなたも…ってあらー…あなたのアソコ…♡随分正直じゃない♡カ・ワ・イ・イ♡』

「ほら、どーお？  
同じ顔だから結構それっぽいでしょ♡」

「トキ」

「わたしもガマンできなくな  
りそう♡」

「あはっ♡このカツコみた瞬間に  
すっごくHまじな臭くい強くなってるよ♡」

「トキ」

「ヒッ」



『ああん♡もっがマンできないから  
先に口から魔力もらっね♡』

(んっ…美遊、キヌだけでイッてる…♡  
かわいい…♡)

(そっだよね…♡魔力吸われるの  
キモチイイもんね♡)

(いいわ…♡魔力吸われてどんどんイっちやえ♡)





「ほら♡今度は下のHなおくちから  
魔力ちようだい♡」

「ほらほらあ♡美遊のアソコ♡  
洪水みたいになっちゃってるよ♡」

「まっ…待って…♡  
今…イッたばかりだから…♡  
ちよつと待ってっ♡」

「んもっ…仕方がないなあ…」



『なら、今度はわたしの「」舐めて♡  
ほら…イリヤのパンツ舐めたり嗅いだりして  
いいんだよ♡』

『んっ♡み、美遊っ…♡がっつき…すぎ…♡  
そんなに焦らなくても逃げないってばあ♡』

「なんだあ♡もう自分でいじっちゃってさっきまでやめてなんて言ってたくせに  
もうガマンできないの??」

「前から思ってたけど美遊ってやつぱり  
ホントにヘンタイさんね…♡  
ほら、見ててあげるから早くいきなさいよ♡」







「だーめ♡その言い訳はさっききいたもん♡  
んじや、いただきまーす♡」



「えっ、ク…ク口待って…  
今またイ…たば…かりで…」

「うわー♡美遊の魔力すっごい濃いや♡  
ほら、肌からも吸収しやすいうように脱いだんだから  
もつとカラダくっつけてよ♡」

「あーあ今度こそ美遊のココロから  
魔力吸わせてもらおうね♡」



『はっ♡はっ♡……ちよっつと、美遊  
暴れすぎ♡そんなにキモチイイの？』

『んっ♡タメっ……美遊の舌キモチイイ……っ♡  
わたしもイキそう……♡あっ……♡あっ……♡……』

『サーとっ♡  
次は美遊になにしてもらおうかなー♡』

『あ…あの、クロコ…その…』

『んー？なによ。今あなたに何させるか  
考えてるんだから…』



びびっ

『んっ…でも…あ…んっ…♡』

『何よーはっきりしないわね！  
早く言いなさいよー♡』

『その…と…トイレ…行ってきても  
しっ…♡』



トイレがああ...

してもイイけ...  
♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

クロっ...? 流石にそれは...

いいのかなあ...  
イリヤの机でも...  
言っちゃっても...

ほーら♡大丈夫だから  
ここでお●も●ら●し♡  
しちやお♡ねっ?

それは...  
うう...

大丈夫♡  
ここでおしっこしたらきっ  
キモチイイよ♡



# コメントです。

このページでは、各ページイラストの簡単なコメントを紹介しています。  
それではどうぞっ！



(P05)

すっかりイリヤの机でオナニーするのにはまってしまった美遊ちゃん。いけないとは頭でわかっているけど、身体が言う事をきいてくれず、オナニーがやめられない…



(P06)

何回目かわからない絶頂を迎える美遊ちゃん。先程までは心の中でイリヤに謝っていたものの、頭の中ではイリヤに見られてる妄想でいっぱい。そんな美遊ちゃんです。



(P07)

そんな美遊ちゃんをのぞいていたのはクロちゃんでした。オナニーに夢中だったせいか、あっさり見つかってしまい…美遊ちゃんを見つけたクロちゃんはある事を思いつきます。



(P08)

絶好の遊び相手を見つけたクロちゃんは先ほど美遊ちゃんがしていた事をネタに魔力供給を要求します。相手が強い感情を抱いてるほど効率がいいので、一緒にオナニーを強制します。



(P09)

美遊ちゃんのお楽しみを邪魔してしまったお詫びに、クロちゃんがオナニーを手伝ってくれるようですが…どうやら美遊ちゃんはすぐに気に入ったようです。



(P10)

魔力でイリヤの転身衣装のコスプレをするクロちゃん。肌の色以外はイリヤと瓜二つなので美遊ちゃんが気に入るのも納得です。



(P11)

あまりにも興奮してしまいいろんなトコロから魔力がだだもれの美遊ちゃん。クロちゃんもオナニーの手伝いをするつもりが思わず口から魔力を吸ってしまうのでした。





(P12)

口から魔力を吸われてしまった美遊ちゃん。ひとまず満足したクロちゃんがアソコを触るといった直後で敏感なのかまたすぐにイきそうになってしまう美遊ちゃんです。



(P13)

美遊ちゃんが少し休んでる間に、クロちゃんは美遊ちゃんに自分のパンツをなめさせます。休んでるはずの美遊ちゃんもクロちゃんをイリヤだと想像してすっかり興奮状態です。



(P14)

そしていつの間にか美遊ちゃんの手は股の間に伸びて、自分を慰めていました。クロちゃんに見下ろされて、ゾクゾクするものを感じながらイってしまう美遊ちゃんです。



(P15)

今度こそ下の口から魔力をもらおうとするクロちゃん。またイってしまった美遊ちゃんがやめてとお願いしますがきいてもらえません。たくさん吸われちゃいます。



(P16)

あまりのキモチよさと息苦しさとで暴れる美遊ちゃん。美遊ちゃんが息をしようとする時クロちゃんがお股を押し付けてきて、なんだかんだで二人ともイってしまいます。



(P17)

何度もイかされてすっかり疲れてしまった美遊ちゃん。いつの間にかおしっこがしたくなってしまい、恥ずかしさに耐えながら必死で告白します。



(P18)

美遊ちゃんの告白に返されたのはあまりに恥ずかしい答え。流石におしっこを人に見せるのは恥ずかしいのか我慢してる間にもドンドン限界が近づいてきます。



(P19)

耳元でおもらしを催促され続け、美遊ちゃんの我慢もついに限界に。いままで感じた事のない恥ずかしさと、その中にある新しいキモチよさに混乱する美遊ちゃんです。

# あとがき

どうも、ピケルです。美遊ちゃん本2冊目となりましたが、いかがだったでしょうか。今回、同じキャラクターで2冊本を作るのは初めてだったので、描いていてまた少し新鮮に感じるものがありました。本の形式も前回と少し変えてイラスト本テイストにしてみました。これはこれで難しいと感じる点もあり、学ぶ点も数多くありました。

本の内容については今回は露出成分が少なめになっていますが、次回は増やしたいと思っています。（ちなみに次回もプリヤ本予定です。）詳しい内容は未定ですが、まだ美遊ちゃんの転身後の衣装を描いてないので、次回は是非描きたいと思っています。

一応、前回の『ふえちゅぱしょうじょ』の続編として描いたこの本ですが、次回で一区切りになると思います。もしよければ最後まで見ていただければ幸いです。

今年の頭、急に本の内容を変更して出会った美遊ちゃんですが、この後もいい具合に痴態をさらしてくれると思います。

ではまたそのときまで・・・

## ぺろぺろしょうじょ

著者：ピケル  
編集者：みなもとけい

発行日：2015年10月4日  
発行：つるつるパイン  
初出：サンシャインクリエイション 2015 Autumn  
印刷所：株式会社ポプルス

mail: info@tsurupai.xii.jp    twitter: @tsurupaiinfo

\*ご注意\* 当作品内容の全部または一部を無断で加工・改変し、インターネット上に公開する事を固く禁じます。また、当作品はフィクションでの出来事を題材にしたものです。